

団体名：(社)日本海洋少年団連盟

事業名：団員拡充モデル事業の実施

#### < 総合評価 >

日本海洋少年団連盟は、現在の団員数、指導者数を明確に把握していない。本事業は団員拡充を目的とするものであり、事業成果として団員数、指導者数を把握せずに事業を実施していることに大きな問題がある。

事業参加者からの評価は高いものの、事業の開催地域や参加者に偏りが生じており、受益者が限定的になってしまっている面がある。航海訓練所との調整の遅れや事業の細部の決定が遅延するケースもあり、内部の意思決定の迅速化、航海訓練所との連携強化が求められる。また、団員拡充のために海洋少年団の認知度を向上するための広報活動が求められる。

#### < 会計評価 >

会計については、諸規定の整備、書類の保管等、いずれも問題なく実施されている。

#### < 事業プロセスの評価 >

##### < すぐれている点 >

- ・ 団員拡充という目的の達成のためには、指導者育成、海洋少年団活動の魅力向上が重要であるという認識の下にそれぞれの事業が組み立てられている。
- ・ 本事業の担当者は、個別事業の運営について積極的に取り組んでいる。
- ・ 研修等の事業で協力を得ている講師は、大学等で学生に指導をしている立場にあるなど能力が高く、講師の質が確保されている。
- ・ 実証団によるモデル事業の活動は、各海洋少年団連盟にフィードバックされている。
- ・ 研修内容等に対して前年を踏襲するのではなく、参加者等の意見を聞きながら改善を行っている面も見られる。

##### < 改善にむけての課題 >

- ・ 団員拡充を目的としながら団員数を正確に把握せず、海洋少年団の実態を把握しないままに事業を実施している。事業目的の成果指標である団員数、および個別事業の目標を明確に設定して事業に取り組む姿勢が求められる。
- ・ 実施内容に関する細部の決定の遅れや、問い合わせに対する対応の遅れが一部見られる。内部での意思決定の迅速化、航海訓練所との連携体制の強化が必要である。
- ・ 指導者研修会、モデル事業に対する応募が少ない。企画内容や運営方法が海洋少年団の現状やニーズに対応していない可能性があり、海洋少年団全体のニーズを把握し、企画内容や運営方法の見直しを図る必要がある。
- ・ 副読本は各海洋少年団に一律で10部ずつ配布されている。指導者全員に行き渡るよう、指導者数に応じて配布する必要がある。
- ・ 機関紙「海っ子」のターゲットがあいまいであり、これを明確にした上で、内容を見直すことが求められる。
- ・ 団員拡充という目的のためには、新規団員を増やすことが必要であるが、一般社会に向けたPRがあまりなされていない。新聞へのプレスリリース等、一般社会に向けた積極的なPRが求められる。

#### < 事業成果の評価 >

##### < すぐれている点 >

- ・ 実証団によるモデル事業の実施は、事業を実施した団体においては実際に新規団員を獲得している。また、実証団によるモデル事業を知り、これを参考に新たな取り組みを行ったという海洋少年団もあり、モデル事業として活用されている。
- ・ 全国指導者研修会、海っ子ビーチコーミング研修、帆船体験教室は、参加者から「役立った」と評価され、さらにその後の活動に取り入れられている。
- ・ 副読本はわかりやすいと指導者からの評価も高く、実際に活用されたケースもある。
- ・ 帆船体験教室を開催する地域に海洋少年団がなかったために、地元の小学校に呼びかけを行ったことをきっかけに、新たに海洋少年団が発足する予定である。
- ・ 学校教育における海洋教育の弱さが指摘される中、子どもたちに対する海洋教育に取り組んでいる本事業は、社会的ニーズに対応した一定の成果を上げているといえる。

##### < 改善にむけての課題 >

- ・ 海洋少年団の団員数及び指導者数が不明なため、事業成果を把握できていない。しかし、アンケート結果から団員数及び指導者数は減少していると判断できる。明確な指標を設定して事業成果を把握することが必要である。
- ・ 個別事業に参加した海洋少年団の数は、全国指導者研修会で32団、海っ子ビーチコーミング研修で46団にとどまっており、全国指導者研修会、帆船体験教室は、定員を下回るケースがある。
- ・ 副読本がすべての指導者に行き渡っていない。
- ・ 長年の青少年育成団体としての活動が評価され、地元の教育委員会等から表彰されている事例はあるものの、海洋少年団そのものの知名度が低く、社会にその活動が浸透していない。海洋少年団としての一般社会に向けたPRが求められる。

#### < 資金効率評価 >

団員の獲得に対しての資金効率を評価すべきところであるが、本事業においてはどれだけの団員が獲得できたかが明らかでないため、資金効率を評価することはできない。

#### < 今後の方向性 >

- ・ 日本海洋少年団連盟が全国組織として海洋少年団の活動を支援するには、実際に団員を増やしている海洋少年団の活動について、人を派遣して実施方法を詳細に伝えることで、「団員拡充モデル事業」としての有効性を確保していくことが求められる。
- ・ 団員拡充を目的としながらも、団員や指導者の数を正確に把握しておらず、海洋少年団の実態を把握せずに事業を実施している。団員の定義を明確にし、具体的な目標を設定して事業に臨むことが必要である。
- ・ 帆船体験教室の航海訓練所の協力については、調整の遅れが生じ、海洋少年団に対する通知が遅くなるケースが生じている。事業に支障が出ていることを航海訓練所にフィードバックすることで理解を促し、連携体制を強化していくことが求められる。
- ・ 新規団員を獲得していくためには、海洋少年団の知名度を向上することが重要である。中央団体として積極的な広報活動に取り組むことが求められる。